



医療法人社団萌気会
在宅療養支援診療所(二日町)
在宅療養支援有床診療所(浦佐)

もえぎ

志太マサ

さん書

10・11

Vol. 400
2025/11.15

こども園 運動会

撮影地: 浦佐認定こども園

撮影者: こども園職員



INDEX

- 2 子宮頸がんは早期発見でも妊娠・出産に影響する
HPV ワクチンの大切さを知ろう!
- 3 巖志理事長活動報告 / 育児・介護両立支援制度推進法
- 4 NPO地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク
- 5 第4回全国の集いin鶴岡2025
- 6 第2回 食べる幸せを支える魚沼の会 /
「食べる幸せ」を支える多職種連携
- 7 新潟県在宅医療推進フォーラム
第17回在宅ケアを考える集い in越後2025
- 8 黒岩卓夫の退院
- 9 五十沢地域文化芸能祭
- 10 ハロウィン行事 / 新米のぬか釜炊き体験
- 11 二日町診療所からのお知らせ
- 12 利用者紹介 / ふみ / 編集後記

※連載「老いと死について」は都合によりお休みします

子宮頸がんは早期発見でも妊娠・出産に影響する HPV ワクチンの大切さを知ろう!

萌気会 理事長
萌気園浦佐診療所 院長 黒岩 巖志

子宮頸がん

好発年齢	20～40代
主な発生原因	90%以上がヒトパピローマウイルス
年間発生数	約10,000人
年間死亡数	約3,000人
症状(早期)	無症状
症状(進行期)	不正出血、茶色のおりもの、悪臭、下腹部痛、腰痛
治療(早期)	子宮頸部部分切除 ⇒妊娠しにくくなる、早産しやすくなる
治療(進行期)	子宮全摘、放射線療法、化学療法 ⇒妊娠・出産ができなくなる

ヒトパピローマウイルス(HPV)

性行為を介して感染する。異性との性経験がある女性の84.6%が一生に一度はHPVに感染する。通常は自然に排除されるが、長い間感染が続いた場合に細胞が少しずつがん細胞へと変化していくことがある。HPVが原因で発生するがんは他に、中咽頭がん、肛門がん、膣がん、外陰がん、陰茎がんがある。

HPVワクチン

10歳～45歳までの女性が対象。予防効果は約90%。10年以上抗体反応が持続すると言われているが、抗体反応が減弱した後も予防効果が長期的に持続する可能性が有るとされている。100%の効果はないので接種後も定期検診は必要である。主な副反応は、発熱、頭痛、倦怠感、接種部位の痛み・腫れ・赤みであるが数日で回復することが多い。重い副反応は極稀にしか起こらない。

日本における接種率は30%台とまだ低い。世界保健機関(WHO)が接種を推奨しており、カナダ、オーストラリアでは80%以上の接種率である。

男性にとっても上記がんを予防するために接種するメリットが有る。また、男性の感染者を減らすことで女性の感染機会が減るというメリットもある。近年、男性に対してもワクチン費用の助成を行う自治体が増えている。

萌気園浦佐診療所、萌気園二日町診療所両診療所で接種可能です。定期接種(今年度12歳～16歳になる方。標準的接種時期は、中学1年生の間)と任意接種があるので詳細は診療所にお問い合わせください。

性経験の前にワクチン接種を!!

大和中学喫煙防止講演会

10月8日、私の母校大和中全校生徒約340人を対象に喫煙の害について45分間の講話を行った。副流煙の害により年間14000人が死んでいる、加熱式タバコも有害であるなど伝えた。講話後、『父が喫煙しているが副流煙の害がどれほどか？』『タバコの味は色々あるのか？イチゴ味はある？』との質問があった。ニコチン・タールを含まず液体の蒸気を吸う電子タバコは、害が少なく、味が豊富でイチゴ味もある。



八海中学『睡眠の大切さ』についての講話



11月6日、全校生徒約300人に、成長発育のためにいかに睡眠が大切か、睡眠を確保するために何をすべきか（食事、メディアなど）、について45分間の講話を行った。下記は、頂いた感想の一部である。『自分の夢を叶えるために正しい睡眠・食事を心がけたい』『寝る前にスマホを触るのをやめていきたい』『睡眠時間が成績に影響すると聞いて驚いた。成績アップのために程よい睡眠をとりたいと思った』



事務局
総務担当主任 中俣 沙織

令和7年4月1日から男女とも仕事と育児・介護を両立できるように、育児期の柔軟な働き方を実現するための措置拡充や介護離職防止のための雇用環境整備等が義務化されましたが、今、雇用する側も雇用される側も少子高齢化による慢性的な人員不足に頭を悩まされる時代になり、萌気会もまさにそんな状況です。

小さなお子さんを持つ職員に柔軟な働き方を実現してもらうための措置として、会社が個別の対応を行い、制度の利用によって仕事と育児の両立に配慮することが義務となり、介護に直面する世代の職員へも早い段階で情報提供を行い、両立支援制度を利用しやすい雇用環境の整備を行うことが必要となりました。

とはいえ、「慢性的な人員不足」の事業所では現実問題、配慮したくても出来ない状況も出てきます。しかし、あり

育児・介護両立支援制度推進法



病室にて卓夫先生の素敵な笑顔をいただきました。

がたいことに萌気会では、一緒に働く仲間のために快く制度利用を申し出た職員を受け入れてくれるたくましい職員と、子育てや介護をしながらも自分らしく働き続けられる職員のおかげで、事務局としてはスムーズな制度利用の推進が行えています。

法改正よりも、一緒に働く仲間の支援のほろが「柔軟な働き方を実現する」力があるのかもしれないですね。



NPO 地域共生を支える医療・

第4回全国の集

地域共生への大きな一歩、初の『市民』大会長

萌気会 理事長
萌気園浦佐診療所 院長 黒岩 巖志



鶴岡大会は、『市民』である瀬尾利加子さんが大会長を務めた。医療・介護者以外の『市民』が地域での活動を発表する場が多く、また高校生ボランティアが大会運営を支えるなど、市民の関わりがとても目立っていた。この地域が、地域共生社会構築へ向けてモデルになる地域であると強く感じた。

この大会の肝である、「実践交流会」は各現場の実践を発表しつつ皆で交流する場であるが、萌気園浦佐診療所外来小泉美香看護師の演題「小児がんの在宅緩和ケアの経験」が優秀演題賞を受賞した。優秀演題賞は、二人の座長が話し合って決めるのだが、二人が「せーの！」で一つ選んだら二人とも同じだったとのこと。大変喜ばしいことであった。



活かせる情報&表彰状GET!

萌気園浦佐診療所
小泉 美香

山形県鶴岡市で開催された地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク。私は発表者として参加することとなり、入職して1年の私が発表！？と不安と緊張の中、準備が始まりました。慣れない資料作成に苦戦し、巖志先生との打ち合わせに緊張し、あっという間に当日を迎えました。発表壇に立つ直前までは大きな声でハキハキと発表するイメージトレーニングができていたのですが、発表壇に立った瞬間、頭が真っ白に…。震える声でなんとか無事発表を終えることができました。

市民の方が発表した「実家IT化大作戦」、ホームセンターや通販で売っている安価なIT機器や使わなくなったスマートフォンなどを駆使した介護の工夫、認知症家族の会の方が発表した「つらい介護を笑いに変える」ユーモアのあるアイデアで周囲に目にかけてもらえるような工夫、市民や家族会の方からこのような話を聞く機会はなかなかなかったため、なるほど〜と思うよいお話を聞くことができました。

これからの仕事に活かせる情報、そして!!表彰状までいただき、たくさんのモノを得ることができた全国の集いでした。この経験を糧に、より一層パワーアップし仕事に取り組んでいきたいと思います。



介護・市民全国ネットワーク in 鶴岡 2025



何を見てどう感じてきたのか

萌気会 事務局長
島村 康夫



約30年前、萌気会黒岩卓夫会長の呼びかけで始まった組織の年1回の全国大会。今まで何度も参加し、今回7年ぶりの参加で私が感じたのは、医療・介護業界以外の市民団体や地元ベンチャー企業の参加が多くなっているということ。地方の小都市で普段から他業種とのつながりが強かったことが一因で、演者・スタッフの配置など大会運営にも活かされているようだった。

この全国大会は、明日から仕事で使える方法を見聞きしてくる場所ではなく、それに関わる人、発信する人たちの想いに触れ、自分で何かを考える機会を得る場所であると心得ている。たくさんの職員に参加してほしい。

鶴岡での交流を 通じて感じたこと



すみれ草
介護主任 小川 美幸

今回初めて全国ネットワークに参加しました。とても緊張しましたが、認知症実践者研修での自身の取り組みを発表するという、とても貴重な経験をさせて頂きました。

医療や介護に限らず、各分野で様々な職種の方が参加し、基調講演・シンポジウム・実践交流会での取り組み発表を聞いて、今回の自分の取り組みや日々のケアについて改めて気付かされた事や振り返る機会になり、貴重な時間を過ごす事ができました。今回学んだ事や気付いた事を日々のケアに活かしていきたいと思います。

また、普段あまり関わりのない他事業所の職員の方とも交流する事ができて、とても楽しい時間を過ごす事ができ、学びの多い研修となりました。



in 鶴岡での 発表を経験して



通所リハビリセンター浦佐
所長 今井 大志

雨模様の鶴岡マリカ東館・西館にて、普段業務の中で取り組んでいる個別リハビリについて発表する機会を頂きました。実践交流会カテゴリー7、メイン会場で緊張感張り詰める中、演題20題中4番目の発表でした。カテゴリー7のテーマが医療介護の連携ということで多職種からの発表があり、それぞれ演題のまとめ方、発表の仕方もそれぞれ違い刺激になる事が多かったです。中でも、同じ通所リハビリテーション施設の発表では、退院前カンファレンスについて紙面での申し送りや、患者さんが同席し、直接希望を聞き状態を把握することの比較が行われ、顔を合わせて話し合うことの重要性が示されていました。この発表を聞き、普段の業務でも活かしていこうと思いました。

その他にも、基調講演やシンポジウムを受講し、全国レベルの情報を得ることができ、大変刺激になりました。

発表が終わった日の夜は懇親会や食事会があり、山形名物の芋煮、そして山形の日本酒を頂きました。とても美味しくやや飲み過ぎてしまいましたが、楽しい研修になりました。

第2回 食べる幸せを支える魚沼の会

萌気会 理事長
萌気園浦佐診療所 院長 黒岩 巖志



今回は、二部構成で、前半は当法人で言語聴覚士として訪問リハと通所リハを担っている金本優理（ゆとり）さんによる摂食嚥下の評価方法の実演（写真）、後半では高齢で嚥下機能が低下した患者へどうアプローチすべきかを、こちらが作成したシナリオを読み合わせたうえでグループワークにて意見を出し合った。後半のグループワークでの各グループ共通のテーマとなったのは「家族・本人・専門職で早い段階から繰り返し行うべき人生会議の大切さ」であった。



「食べる幸せ」を支える多職種連携

萌気園訪問リハビリテーションりらいふ
金本 優理（言語聴覚士）



第1部で講師をさせていただきました。介護や通所・訪問リハビリ現場では機械を使用した詳細な嚥下機能検査が行われないのはもちろん、具体的な情報が少なく評価や食事形態の選定に不安を感じることがあるかと思えます。そういった場合でも問診、口腔体操、食事の観察、家族の情報等から多くのことが推測できるということを紹介しました。介護現場での利用者さんの変化は緩やかで、問題なく食べられていた方が徐々に食べる量が減り痩せてきたり、むせるようになったり、いつの間にか疲れやすく歩行が不安定になっていたりします。ともすれば見過ごしやすい変化の兆し、本人からのサインにいち早く気が付くためには、着眼点とそのサインを理解する知識があればあるほど良いと思います。気が付いたことを周囲のスタッフとも共有して利用者さんの健康をできるだけ長く維持していきたいですね。第2部のカフェカンファレンスでは様々な所属、職種の方々と前向きに真剣に「食べる幸せ」について話し合うことができ、充実感のある内容でした。

企画準備から当日運営まで尽力されている大西康史先生から一言いただきました。

「魚沼地域の横断的な多職種の会として育っていくことが期待できるような、素晴らしい会だったと思います。これから長く続いていくよう、皆さんにご協力をお願いしたいです。」



新潟県在宅医療推進フォーラム 第17回在宅ケアを考える集いin越後2025

萌気会 理事長
萌気園浦佐診療所 院長 黒岩 巖志



新潟県作業療法士会理事である小山智彦さんが大会長を務めた。リハ職の大会長は初である。第1部は、市民向け体験型講座『脳と体のW健康術!』。第2部前半は、作業療法士佐藤孝臣さんによる基調講演『2040年に向けて自立支援を目指した地域づくりとリハビリ』。人材不足の中でも一般市民や定年後の高齢者の参入で地域リハが成り立つことを写真や動画を交えご報告頂いたことが印象的だった。第2部後半は、シンポジウム『支援でつむぐ“わたし”の物語～その人の想いに耳を傾けて～』。シンポジスト5人（リハ職4、ケアマネ1）の実践報告を踏まえ、私と医療ソーシャルワーカーの新野直紀さんが総合討論の冒頭でそれぞれ指定発言をした。本人・家族に多職種が連携・協同し寄り添うことで、その人の最善のリハビリゴールを見出し、困難な中でも皆で一丸となりゴールへ向かうことの大切さを確認し合えた。

多様なアプローチに触れて

萌気園二日町診療所 曼陀羅華
介護主任 柿崎 智美



午前の体験講座では、運動と脳トレを同時に行う認知症予防のプログラム「コグミサイズ」を体験しました。そのメニューの一つ「後だしジャンケン」は、勤務先の軽体操で行っているのでも「これなら余裕でできる」と思っていたのですが、歌ったり足踏みしたりと2つ以上の事を同時に行うのが難しく、リズムがずれたり間違えたりしながらも楽しく参加できました。「コグミサイズ」は、レクリエーションや軽体操としてすぐに実践していきたいと思いました。

午後の講演では、「オーラルフレイル（お口の衰え）」という言葉は初めて聞きました。嚙んだり、飲み込んだり、話したりする機能の衰えが様々なフレイル（心理的フレイル、社会的フレイル、身体的フレイルなど）を引き起こし、やがては要介護状態になってしまう原因になること、その予防の重要性、そしていつも行っている昼食前の口腔体操、食後の歯磨きもオーラルフレイルの予防になっていること、また歯科健診で口腔の健康状態を知ることの大切さを改めて感じました。

午後のシンポジウムではリハビリ職、ケアマネジャーなどの方々からそれぞれの現場での事例が紹介されていました。その中でも、要介護状態での在宅生活において、家族の助けや協力を求めたい要望と、自分のために家族に迷惑をかけたくない遠慮という利用者本人の心境の変化や家族に対する複雑な想い、また自宅で自立した生活ができるようになりたいという希望、そして家族の想いに専門職が寄り添いながらリハビリを工夫することで、利用者本人が達成感を得て、家族も安心感を持てるような支援に結び付けていく事例が大変印象的でした。

自分でも、利用者さんに「できた」という達成感を少しでも得ていただけるような対応ができるように意識してみようと思いました。

今回のフォーラムでの学びを参考にし、介護事業所として利用者さんの気持ちやニーズにどこまで寄り添えるのか、利用者さんの自己実現に向けた多職種連携による多様な支援の在り方についてなど、自分なりにできることから取り組んでみようと思います。

リハビリを通しての想い

リハビリセンター浦佐
介護職員 大谷 靖子



介護の仕事をして20年以上になりますが、視野が狭くなる事もあり、考え方の向上と思い参加しました。

色々な取り組み、事例を知る事ができました。本人のやりたい事、思いに寄り添い、利用者さんの感情が引き出せるよう、今回のフォーラムを参考に現場に取り入れていきたいと思えます。医療・介護の現場だけでなく、住民の地域づくりも必要の中、萌気の職員として貢献できればと思います。リハビリを通して利用者さんの思いの変化を感じられるよう、日々の業務の中で耳を傾けていきたいと思えます。

午前中の体験講座「脳活」では、変な汗をかきながらも楽しく学ぶことができました。



黒岩卓夫の退院

11月1日に、卓夫は南魚沼市民病院を退院して、萌気会が運営している有料老人ホーム「ハイマートハイム島田」に入居しました。

ここは、小規模多機能居宅介護「たもんの郷」を併設する形で入居者に介護サービスを提供しており、昼間はたいそうな人数(20人以上)になっています。

なぜかほとんどおばあちゃんたちで、多くが卓夫の患者さん。大歓迎を受けて、卓夫はすっかり溶け込んで、皆さんが集まってい

るホールに車いすで出ているのでした。夕方私が帰ろうとするのと、入院中はいつも腕を引っ張って「帰らないで」と引き留められていたのですが、全くそのようない動きがなかったのです。さらに手で何かを言いたそうにしたので、「帰れってこと？」というのと深くうなずくのです。おかげで帰ってきました。

おばあちゃんたちはすっかり卓夫を仲間に入れてくださっていて、「さつき巖志先生が、3人の子どもを連れてきていたよ。卓夫先生は、ここにきて迎えて、職員には、あっち行け、というふうに手で払っていた」と報告してくださいます。

女性職員の栗原さんを交えて、みんなで笑いあっていたら、「栗原さんが卓夫さんと一緒に寝てくれればいい」という人がいて大笑い。卓夫も一緒に笑っていました。病院では、こんなこと

社会福祉法人 桐鈴会
理事長 黒岩 秩子

はあり得なかったのでしょうか。「家に帰ってきた」という感じがあつたのだと思います。皆さん、ありがとうございます。

左下の写真は、11月9日に卓夫に会いに来てくださった地域共生全国ネットワーク関係の方達とのものです。京都市から永原宏道さん(医師で元ネットワーク理事、写真卓夫左)、その息子さん弘毅さん(ネットワーク理事、写真左)、名古屋から畑恒土さん(ネットワーク理事、写真中央)、大阪高槻市から中嶋久矩さん(ネットワーク理事、写真右)、中央後方の女性三名は永原宏道さんの娘さん二人と連れ合いさんです。宏道さんは11年前に卓夫と同じ部位の脳梗塞を発症し右片麻痺・失語症なのですが、大きな声で歌を歌ってくれました。言葉は出ませんが歌えるのには驚きました。



巖志の子どもたちと(洸乃(ひろの)11歳、孟陽(たけひ)9歳、万詠(まうた)4歳)



妻秩子とツーショット



～10月19日(日)『五十沢地域文化芸能祭』に行ってきました～

『すみれ草』と『コム・ソフィ』では昨年から作品の展示で参加させていただいています。今年も日々利用者さんがそれぞれ得意な貼り絵や塗り絵、折り紙や編み物などをしていただいた物が作品となり、地域の方に見ただけでとても良かったです。昨年は展示物の見学のみでしたが、今年はステージ発表も鑑賞して楽しい時間を過ごすことができました。利用者さんのご家族にも来ていただけるように前々から案内をして、当日はご家族と一緒に見に行っていた利用者さんも何人かいらっしゃいました。

慣れない準備で大変だったこともありましたが、職員全員で声を掛け合って協力してできて良かったです。また、何度も問い合わせをしてしまったにも関わらず、親切に対応していただいた地域の皆様にも感謝いたします。

ありがとうございました。

有料老人ホーム すみれ草職員



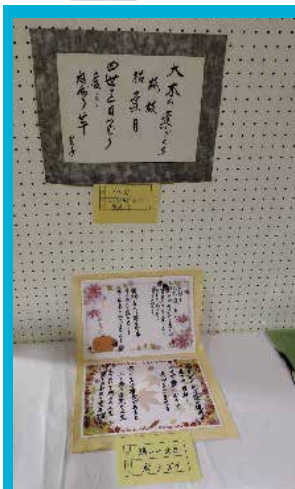
《利用者さんの声》

- *楽しかった。行けて良かった。いろんな作品が見れてよかった。
- *子供の歌舞伎、みんな上手だったね。
- *こんな凄いことしてるんだね。
- *職員さんは階段大変だったね。
- *来年は踊りでもしょうか。車椅子ダンスもいいね。生きていればね(笑)。(来年に向けて話が弾んでいました)



《職員の声》

- *役員の皆様、見に来て下さっていたお客様も手伝って下さり有難かったです。
- *学生さんがたくさん来られていて活気があった。
- *女性の方々は生け花に興味があるようで、長い時間鑑賞されていた。作家の方にも説明してもらって利用者さんが質問したり、「まるで造花のような不思議な花だね。」と感心されていた。
- *作品がカラフルで良かった。大きい作品は迫力があってよかった。
- *文化祭が終わったあと、遠方から久しぶりに来られたご家族が居室に飾っていた作品を見て、「すげえ～じゃん。これいいね。大事にとっておこうよ。」と喜んでくれました。



利用者さんの作品



ハロウィン行事

曼陀羅華



コム・ソフイ



新米のぬか釜炊き体験

こども園 副園長
平澤 佳子

令和7年10月10日、浦佐認定こども園では秋の恒例行事「ぬか釜体験とシャカシャカおにぎり」が行われました。

越後探検隊アドベンチャーの岡庭さんが、ぬか釜を使って新米を炊いてくださり、子どもたちはぬかを釜に入れるお手伝いをしながら、炊きあがる様子をじっくり観察しました。炊きたてのご飯は紙コップに入れてシャカシャカ振ると、まんまるのおにぎりに変身！自分で作ったおにぎりを頬張る子どもたちの笑顔があふれました。

今年も晴天に恵まれ、196名の園児たちが10升8合の新米を完食。米どころならではの贅沢な給食となりました。

お米は毎年JA新潟さんよりご提供いただいております、食の大切さを学ぶ貴重な体験となりました。





インフルエンザワクチン予防接種のご案内



平素より当施設の運営にご理解・ご協力をいただき誠にありがとうございます。

今年も関東ではインフルエンザが流行し始めました。昨年は年末インフルエンザが流行しております。インフルエンザの流行時期を迎えるにあたり、ご利用者さま・ご家族さまの健康を守るため、二日町診療所にて、インフルエンザワクチン予防接種外来を下記の日程で実施いたします。

皆さまが安心して冬を迎えられるよう、ぜひ接種をご検討ください。
今後の流行期に備え、皆さまの健康維持にお役立ていただければ幸いです。

【対象者】 インフルエンザワクチンの注射をご希望の方
(ワクチン接種のみ 一般診療は行いません)

【実施日時】 インフルエンザ予防接種外来

11月22日(土曜日) 13時～

【予約方法】

QRコード

二日町診療所ホームページ

( インフルエンザ予防接種WEB予約)

下記URL

<https://moegien-futukamachi.mdja.jp/>
よりご予約ください。



※インフルエンザ予防接種外来でご都合のつかない方は、診療時間内で、

予約なしでも接種しております。

※WEBでのご予約をして頂くと待ち**時間短縮**です。

萌気園二日町診療所
お問い合わせ：025-778-0088





★うちの利用者さん★

小規模多機能型居宅介護 コム・ソフィ

今回は六日町の井口正吉さんです。

コム・ソフィをご利用
になられた感想はいかが
ですか？



はじめは、何で行かなきゃなら
ないんだと思ってた。だけど、
慣れたら通うのは嫌じゃなくなっ
たし、良くなったよ！ありがたい
ね。

若い頃はどんなお仕事
をされていましたか？



本業は農業で、かなりの量やつ
ていたんじゃないかな？他にも
色々をやったよ。製材関係とか、
ブナの木を使ったりしてバドミン
トンのラケット作りなんかもした
よ。

葬儀屋の役員を務めていた事があったりと
他にもまだまだ色々なお仕事をしていたそ
うで、とにかく忙しい日々だったそうです。
職員にも他の利用者さんにも、人当たりの
良い正吉さん。いつも優しい口調で返して下
さいます。これからも元気に通ってきて下さ
い！



井口 正吉 様

ふみ

萌気園老人ホーム すみれ草



利用者 山口 ノリ 様
文 長男嫁より

義母は「すみれ草」さんに入所し、早十五
年となりました。今では入居者の中でも一番
長くお世話になり、すっかり住み慣れた我が
家のように日々安心して過ごしています。
七月で九十九歳「白寿」を迎え、ささやか
ではありますがお祝いすることが出来まし
た。
義母は目と耳がだいぶ衰え移動も車椅子を
使いスタッフさんに助けていただきながら生
活しています。私達が面会に行くと「よく来
たねえ」と笑顔で迎えてくれます。若い頃
は社交的でしたので、認知症ではありますが
明るく会話を楽しんでいきます。(笑)
義母が穏やかに過ぎて居られる事に「すみ
れ草スタッフ」さんに感謝し、これからも
日々平穏に送れる事を家族一同願っていま
す。

編集後記

萌気園グループホーム ふきのとう 関 祐子

朝夕の風に秋の深まりを感じ
る季節となりました。そし
て食欲の秋です。新米、松茸、
秋刀魚、里芋、ぶどう、柿など、
皆さんはどんな秋の味覚を楽
しまれていますか？

私の働いているグループ
ホームふきのとうは山の際に
あり、春にはカモシカ、初夏に
はイタチが事業所の前でケン
カをしている姿や、珍しい蛇
「シロマダラ」の赤ちゃんを見
られたりします。初めてカメ虫
の大量発生を見た時は全身に
鳥肌が立ちました。そんな自
然に囲まれた職場で、個性豊
かな利用者さんと職員と共に
過ごす事ができ、毎日楽しく
幸せな時間を頂いています。

私は今年度より新聞委員と
なりました。萌気会に入職し
初めての委員会となります。
私には文才もなく、漢字はウソ
字を書くことがあります。が、
ご家族の皆様、地域の皆様にも
えぎ新聞を通じて事業所の
雰囲気や入居されている利用
者さんの様子をお知らせして
いきたいと思っています。

不慣れではありますが、こ
れからも頑張っていきたいと
思います。



味・多体・かあひ

八海中学『睡眠の大切さ』



東海